

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4473000349		
法人名	社会福祉法人 直心会		
事業所名	望箭荘 グループホーム山国		
所在地	大分県中津市山国町守実57-1		
自己評価作成日	平成27年9月5日	評価結果市町村受理日	平成28年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成27年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地元産の旬の食材を使用し、手作りで温かい食事を提供している。
立地を生かし、ドライブや散歩で季節感を感じ自然を楽しんで頂いている。
職員が支援を行ないながら、作業やレク、余暇時間を利用者と一緒に楽しんでいる。
行政や地域との連携を取りながら、サービス利用時の情報交換を行い安心してサービスを受けて頂けるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者の思いや意向を把握し、一人ひとりの出番があり利用者に笑顔と穏やかさがある。
- ・利用者に食べたいものを聞き、地元の食材を使用し事業所内で3食手作りの食事を提供している。
- ・職員の人材育成に力を入れ、在籍年数も長く、介護の専門職として資格を取得し生き生きと働いている。又、医療面や健康管理に配慮し、安全で不安のない日々を送っている。
- ・地域との交流では、住民が気軽に立ち寄れるように、事業所の日当たりのよい玄関にソファやくつろげる場所を提供し、利用者との触れ合いの場としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	荘内の見やすい場所に掲示するとともに、毎朝の朝礼や職員会議時に唱和し職員への理念の浸透に努め、支援に生かしている。	理念を、家族や利用者の目に触れる場所や介護の現場に貼り、常に実践できるように工夫をしている。実践状況は、利用者一人ひとりの穏やかさや部屋作り等を通して見えてくる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や祭り等に参加して、交流を図っている。近隣の商店などへご利用者と一緒に出掛け生活に必要なものを購入するなどして職員、ご利用者共に地域の中での生活交流を楽しんでいる。	住民が気軽に立ち寄れるように、玄関にソファがあり、一休みできるように工夫している。又、地域の行事や買物・地蔵参りを通じて、触れ合いがある。玄関では、バスの待合室のように住民と利用者が触れあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会において認知症の症状や対応について話し合い、理解を深めてもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事前にサービス内容や状況の報告を配布し会議時の意見交換の時間を増やすことで、意見を頂くだけでなく、より良いサービス提供が出来るように会議のあり方を検討している。	運営推進会議を、2ヶ月に一度、開催し参加者は10人ぐらいである。マンネリ化しない工夫として、事前にサービスの実際や現状報告をしている。推進会議の中で意見を出してもらい、サービスの向上に繋がるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員からの情報提供や地域包括支援センター職員のアドバイスを頂きながら、ご利用者が地域の中で更に生活しやすいように連携を図っている。	地域の中で安心して暮らして頂くために、市の職員や地域包括支援センターの職員よりアドバイスをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護や身体拘束について研修を行い理解を深めるようにしている。又、見守りに努め施錠しないようにしている。	権利擁護や拘束について「しないケア」を徹底し、「繰り返しことば」で理解してもらうよう働きかけている。特に見守りを厳守し、施錠は禁じている。権利擁護や拘束の研修は定期的に行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止対応規程を作成し、委員会を設置。2ヶ月に一度会議を開催し事例を挙げながら検討している。課内研修にて虐待についての認識、意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について行政や関係機関に相談しながら必要性を確認し、活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項を十分納得して頂ける様説明をおこなっている。要望や意見を聞き入所後の不安の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プランの見直し時や面会時など機会あるごとに確認し、意向や要望等を確認し話し合う事でご利用者主体の支援、運営に努めている。	家族の面会時や電話で要望や生活習慣や趣味活動等を聞き、日々の生活の中で支援している。また、趣味活動などは一人ひとりの部屋づくりに取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務や運営に関する改善点について個々の意見を聞き朝礼、職員会議などで議題に取り上げ検討することで職員の意見を反映している。また事業計画作成において職員の意見を取り入れている。	運営に対し、自由に意見を出しあって運営に反映している。職員は在籍年数も長く、働きながら介護福祉士の資格も取得している。また、制服に対して、意見を聞きカラフルで個性豊かなトレーニングウェアを着用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	慰労を兼ねた食事会や表彰制度を取り入れ向上心を持って働ける職場環境づくりに努めている。面談を行い疑問や要望を聞きながらメンタル面での安定を図り、意欲の向上を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り必要な研修に参加し、職員の資質の向上に努めている。また、資格取得の為の個々の取り組みについて業務上の配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に所属しており交換実習を年間で計画し実施している。他事業所との交流で情報交換やサービスのあり方を検討することでサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にご本人やご家族と十分な面談を行い生活の有り方を検討している。担当ケアマネからの情報も参考にし様々な問題に安心して利用して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談時に現状やサービスの利用状況などを伺い、ご家族の意向を理解し介護相談や助言を行うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人の状況を的確に判断し、助言をすると共に必要と思われる内容には説明を行ない、他の関係機関等のサービスの紹介なども含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、一方的な支援にならない様、ご利用者と相談したり助言をする。また、生活の中で支援する部分とご利用者から知恵を頂くことで活動や家事を一緒に楽しんで生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、電話連絡などで、ご利用者の様子を伝え理解して頂きながら協力を得たり、ご利用者、ご家族の思いを受け止め気軽に相談して頂けるようコミュニケーションを密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊・外出は自由にして頂いている。面会時には、共に過ごせる場を提供し、ご家族やご友人など大切な人たちとの時間を有意義に過ごせるように努めている。	馴染みの案山子祭りや道の駅・もみじ・コスモスの花見などに出かけている。面会時は、家族とゆっくり過ごせるように場所を提供している。また、外泊・外出も家族とゆっくり過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や相性を把握し、ご利用者同士の人間関係が円満にいくようレクや談話の場面などでお一人おひとりが満足し穏やかに過ごせるような声掛けや支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に異動された方にも、情報を提供したり継続的に相談を受けるよう心掛けている。又、面会の機会も作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の表情・行動・言動などから、個々の思いをくみ取り寄り添った支援に努めている。	面会時に日々の様子を知らせ、意向や思いを聞き、家族からは「母らしくて良い」「現状のままで良い」などの思いを聞いている。状況の変化時は、アセスメント表の情報収集を行い、思いや意向を再確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人やご家族の意向を聞き、担当ケアマネージャーからの情報も考慮している。また、入居後も定期的にご本人やご家族に聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者個々の生活リズムを把握すると共に、特技や趣味を発揮できる場面を提供し、その場面に合わせた声掛け、見守り、支援を心がけ、個々の状態を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の日常的な関わりの中での思いや意向を把握し、反映させるようにしている。職員全員で検討し、ケアプランを作成している。	情報収集をもとに、利用者や家族・職員の意見をもとに、介護計画書を作成している。中津市からは、専門職のアドバイスがある。今後、具体的で実行可能なケアプランの様式を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況は個別記録に時間毎に記入し、体調変化や気づきには申し送りを徹底し、情報を共有している。またそれを介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じた通院や送迎等の支援を柔軟に対応している。個別対応に心がけご家族やご本人の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会において地域の情報やご意見を頂き地域資源の活用に努めている。災害時のご協力を頂くなど全体的にはもちろん、ご利用者個々の地域資源を把握しご協力やご支援を頂ける様働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、ご利用者がご希望する医療機関へ受診するように支援している。受診時間内や必要な時は往診などの対応可能な協力医を確保している。	現在、訪問診療や遠距離の精神科・かかりつけ医・専門医等、複数の病院に受診している。更に法人代表の医療機関の医師や看護師との連携もあり、適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診や健康診断にてご利用者の状態や既往歴を把握している看護師や、法人内の看護師に助言を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前のご利用者の生活状況やご希望を情報として提供し、安心して治療を受けて頂く、ご家族や医師と連携を取りながら早期回復と退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される場合は早い段階で医師の意向を確認し、ご家族とも充分なご相談をした上納得のいく終末期を過ごすよう取り組んでいる。	利用開始時に重度化や終末期について、家族に意向を確認している。現在まで看取りの経験はないが、緊急時の対応では看護師による学習会やAEDの指導も受けるなどで備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡網、マニュアルを把握し救急法の勉強会、AEDの使用講習会を定期的に行い体得するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時には、職員、地域の方にも緊急連絡網にて協力を得られるよう整備している。消防署指導のもと総合訓練を行い、同法人内での協力体制も整えている。	数年前の河川の氾濫や土砂災害の経験を教訓にして、災害に関して再度、避難路や備蓄・通報のあり方を振り返り、避難訓練が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格に合わせ、さりげない言葉がけや対応に心がけ、気づいた事は職員同士が互いに注意し合うようにしている。プライバシー保護について勉強会を行ない理解を深めるよう努めている。	利用者一人の思いを大切に、個々のプライドを傷つけないように、職員の学習会を開いている。理念の中に掲げており、利用者に穏やかさと笑顔が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活全般においてご利用者個々の意思表示を大切にケアに心がけている。意思表示が困難な場合は、頷きによる返答や表情から気持ちを読み取り、ご本人の意思が尊重できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、体調やその日、その時のご本人の気持ちを尊重し、食事時間、入浴の変更、個別の散歩など柔軟な対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望する衣服を着て頂く、希望の髪型を聞き地域の美容室でのカット、カラー等の支援を行なっている。行事の際は化粧や整髪を支援し、おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食を調理しているので好みや体調に合わせて調理方法やメニューを検討出来ている。買い物やもやしの根取り、さがきゴボウなど出来ることを職員と一緒にして頂いている。	調理専属の職員によって3食手作りされ、利用者と一緒に買い物や下ごしらえ等、潜在能力を生かした取り組みである。また体調に合わせた調理方法や好み・行事に合わせた食事作りが行われている。職員と利用者は一緒にテーブルを囲み、和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記録し、少ない場合は申し送り必要な支援をおこなっている。栄養士に相談するなどし必要に応じて補助栄養の摂取も支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にうがい、歯磨き、義歯の手入れを支援し口腔内の衛生に努めている。又、毎晩義歯のポリドント洗浄支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、ご利用者の行動を察知しトイレ誘導を行い、できるだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。又、時間を見計らっての声掛け、誘導を行っている。	リハビリパンツの使用が多く、出来るだけトイレでの排泄をめざし、排泄チェック表を使用して声かけ・誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動・水分摂取・飲食物の工夫で便秘予防に努めている。排泄チェック表を活用しながら排便支援を行なっている。医師より薬を処方されている方もあり様子観察をし服薬を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回は入って頂く。ご本人の希望や体調や気分など必要に応じて柔軟に対応している。入浴をゆっくり楽しんで頂けるよう個浴にてペースに合わせた支援を行なっている。	月・水・金曜の週3日を入浴日とし、利用者の意向や習慣を大切にしている。また体調などに合わせて柔軟な対応で入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のご利用者の生活パターンを観察しご本人の意向を尊重した生活を支援している。例)午睡・運動・レク・余暇活動への参加を行うことで安眠を促す支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の変更があった場合は内容を記録し職員間で共有する。副作用や変更後のご本人の状態の変化には迅速に主治医への相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴を把握し、得意分野で一人おひとりの力を発揮してもらえるように配慮している。グループホーム内で出来る手伝いなどをお願いし、終了後はご本人に感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望により日常的に散歩や近隣への買い物、ドライブなどに出かけたり花見や紅葉見学などの季節ごとの外出も、外食なども楽しんで頂ける様支援している。	事業所の出入り口は、外気に触れられるように簡易式のベットや椅子が置かれている。また、敷地内にお地藏様があり、日常的にお参りしている。又農協へお買い物や紅葉見物・外食などで楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭感覚の能力に応じて、買い物外出時に職員付き添いのもとで支払をして頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望や用事がある際には電話を掛ける事を支援している。また、はがきや年賀状を出すなどをしご家族と交流を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファを置きテレビをゆっくり見たり本を読むなどの余暇を楽しめるようにしている。日当たりの良い場所での日向ぼっこを楽しんでいただけるようスペースを確保している。また、音楽をかけたり花を飾ったりし環境づくりに努めている。	共用空間には、季節ごとに大作の共同作品(貼り絵)が掲げられている。広い窓から住民の生活やお地蔵様・花壇が一望でき、四季折々の花を見ながら職員と和やかに過ごしている。カラオケやテレビなど職員・家族との団欒の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々で好きな事ができるようスペースを確保するよう努めている。ゲームや談話、テレビ鑑賞など個人が思い思い過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物。あると落ち着く物を持って来て頂くことで安心して過ごして頂いている。カレンダーや時計などご本人の好みで自由に居室づくりをして頂くようにしている。	それぞれの居室には、カレンダーや時計・馴染みの家具・孫からの「手書きの詩」日々の塗り絵の作品・記念写真など数々の思い出の品が置かれ、居心地良さが伺える居室づくりである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・エレベーター・浴室・脱衣室など手すりの設置や段差をなくし安全や自立に配慮している。玄関には椅子を設置し腰かけて靴の着脱を安全に行えるようにしている。		